報 告

日本神経回路学会第29回全国大会（JNNS2019）運営報告

小 池 康 晴

東京工業大学科学技術創成研究院*

Yasuharu Koike

IIR, Tokyo Institute of Technology*

2019年9月3日～9月6日の4日間にかけて、大会長に樺島祥介先生、実行委員長として青西亨先生の実施体制で東京工業大学蔵前ホールにおいて、日本神経回路学会第29回全国大会（JNNS2019）が開催されました。初日の3日はサテライトシンポジウムとして、

東京工業大学の西森先生に「量子アニーリングの理論と実装の現状」というタイトルで基調講演をお願いし、また、コヒーレント・イジングマシン関連セッションを開催しました。本大会は、4日から6日まで、招待講演として、東京大学の杉山将先生に「弱教師付き分

西森先生

樺島先生

杉山先生

渡辺先生

類：低ラベル付コスト・高精度な機械学習の実現へ向けて」，東工大の渡辺澄夫先生に「神経回路網研究における代数幾何学的方法とその成果について」という演題で講演していただきました。さらに，今大会は，学会創立 30 周年記念ということで，学会創設期から学会に関わり，一昨年神経回路学会学術賞を受賞された ATR の川人光男先生に「少数サンプルから学習できる脳の仕組み」という演題で記念講演をしていただきました。

大会長の樺島先生から，30 年前の神経回路学会と翌日に開催された「神経回路学会第 1 回講習会」の資料

をもとに，その当時の演題なども含めて紹介していただきました。30 年後の第 59 回 JNNS 全国大会でも，今の若手の研究者の皆さんが今大会を振り返って，30 年間の研究の進展について考える機会になればと思います。

本大会は，75 件の研究発表が採択され，口頭発表 12 件，ポスター発表 63 件となりました。また，177 名の参加者を集め，活発な議論が行われました。

また，最終日には，総会に引き続き表彰式が開催され，大会奨励賞も 2 件の受賞がありました。

30 周年の記念大会と言うことで，いろいろと企画をやらなければならないと思っておりましたが，なかなかよいアイデアが浮かばず，盛大にお祝いすると言うことができませんでした。個人的に神経回路学会の研究背景を示している塚田先生が描かれて，甘利先生が着色した絵を予稿集に掲載させていただくことを御快諾していただき，カラーで紹介させていただけました。神経回路学会を牽引する若い研究者が ASCONE などの取り組みからも生まれていますので，次の 10 年がどのようなのか楽しみにしております。

最後に，本全国大会の運営にご尽力いただいた皆様，どうもありがとうございました。

川人先生

受賞者